



論文賞

女性が夢を生きるということ

SI 光 推薦 山口県立光高等学校1年 ルードウィッグ 佳奈

ある女性には高校生の頃、教師になるという夢があった。しかし、大学へ進学した兄がいたため、やむを得ず短期大学に進学することとなった。彼女は未だに夢が果たせなかったことを残念に思っており、折に触れ「夢を持って、それを実現するのよ。」と私に言う。

男性優位社会ゆえに彼女は夢をあきらめざるを得なかったのか。一家の中で男子は、親に期待され、進路決定において女子より優先される。なぜ男女の別で夢をあきらめなくてはならないか？私は思う。女子にも男子同様に夢を抱き、実現させる権利があるはずだ。

さて、私は中学校の修学旅行の班別研修で、自らアポイントメントをとった上野動物園と東京大学附属動物医療センターの訪問を行った。興味深いお話を伺い、大変貴重な経験となった。そう、私の夢は、獣医師になることだ。Web で女性獣医師が作るホームページから、女性獣医師に実施されたアンケートのデータ結果を分析した。とても残念なことに女性獣医師は、社会的地位が低いと感じているという。また、同じ仕事をしているのに、体力的な理由から男性よりも仕事量が少ないということもあった。たとえば牧場で、女性獣医師が担当とわかると口も利かぬ飼い主がいるという。さらに管理職となると女性には重要なポストが少ない。獣医師になりたいとあこがれ、夢を果たした女性獣医師は、直面する厳しい問題に向き合いながら仕事をしている。これらは全て「女性だからできない」という固定観念によるもので、まずその意識を変えることにより問題解決の糸口が見いだせるはずだと考える。

獣医師の中で、女性が占める割合は23%と極めて少ない。また、国勢調査のデータによると、獣医師に限らず女性は30代から就労人口が80%から65%へと激減しており、これには、社会問題である結婚・子育てのことが関係している。30代になり子育てのため仕事を辞めざるを得ない状況になること、すなわち女性が社会進出の機会をのがし、夢をあきらめることは、正しいことであろうか？今こそ、社会で子育てを支援する体制を整えることが求められている。その解決に当たり、私は一つのことを提案したい。

それは、幼児を抱える家庭の近所に住む人々に、低料金でベビーシッターを引き受けてもらう仕組みを作るというものである。ベビーシッター役の対象には高校生も含めてよいだろう。こうした仕組みは、海外では一般的だと聞いている。

特に高校生は子供との接し方を学べるいい機会となり、お小遣いも稼げる。最近はいくじいという、子供の面倒を見る男性も活躍しているようだ。実際、私の市にもチャイルドサポートのシステムはあるのだが、利用手続きが煩雑で、毎日となるととても高額となるそう。それでも地域間での様々な仕組み作りこそが、地域を一体化し、問題解決を前進させると思う。私はこのような社会を目指し、夢を生きるため、社会へ発信し続けていこうと思う。